

樹木葬注目集める

5月に開園
完全個別型
2か月間で130件以上申込み

北海道 中央霊園

【岩見沢、三笠】墓石の代わりに樹木等を墓標とし、墓地に埋葬する「樹木葬」が注目されている。空知管内では初めて北海道中央霊園（岩見沢）が5月下旬に三笠市大里の同霊園内に樹木葬「Forever」（フォーエバー）を開園。約2か月で130件以上と予想を上回る申し込みが来ており、うち7割は生前予約者という。同霊園では現在、2期工事を進めており、高まる需要に応える考えだ。

【末永直樹】

同霊園では、平成26年6月に永代供養付き合祀墓地「結の苑」（ゆいのその）を開園し、既に900体を超える埋葬と約350人の生

前予約を受け付けている。「結の苑」はひとつのお墓に多数の遺骨を埋葬する合祀墓で、同霊園には個別埋葬できる永代供養墓の開園

を要望する声が数年前からあったという。樹木葬「Forever」は他人と合葬されることのない個別埋葬方式を採用。お墓は2体まで埋葬できるタイプと4体まで埋葬できるタイプがあり、埋葬者数によって選択で

ける。御影石の石板にステンレス製のプレートが付く。石板の下に、2人用は直径20センチ、4人用は同30センチで、ともに深さ60センチのカロート（遺骨を埋葬する場所）があり、底面は土に覆われていて地面と繋がっている。遺骨は永久埋葬され、一定期間経過後に合葬されるといふことはない。価格は1体につき総額5・5万円〜8万円の低価格に設定し、追加負担は一切ない。最近、夫を亡くし、自身の生前予約を含め2人用の樹木葬を申し込んだ岩見沢市内の主婦（78）は「別の場所にあるお墓は将来を考えて『お墓じまい』をすることにし、子どもたちにも迷惑をかけたくないので、私と主人は樹木葬にすることにしました」と語る。

同霊園の武田寛理事長は「少子高齢化、核家族化によりお墓の維持に不安を持つ人が増加している。お墓の継承者問題で悩んでいる人をひとりでも減らしたい」と話している。



予想を上回る申し込みが来ている樹木葬「Forever」